

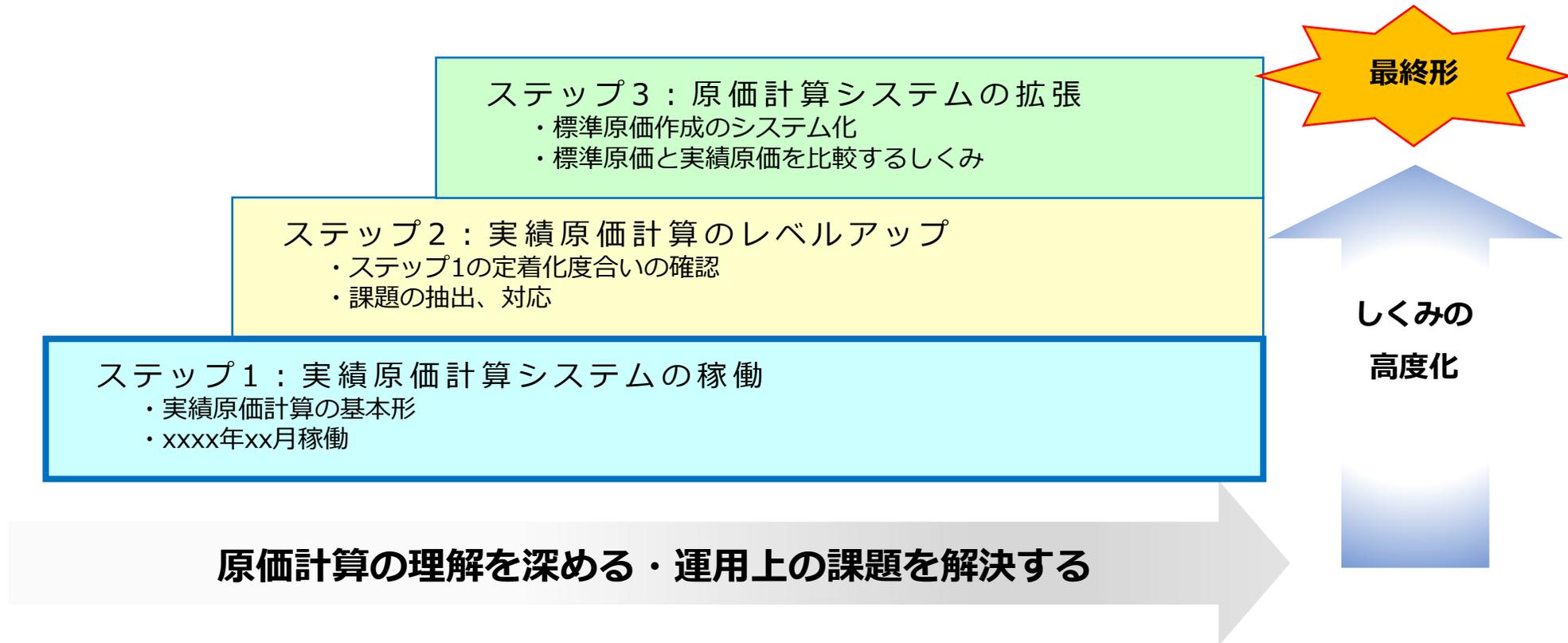


原価計算システム構築 進め方



方針（案）

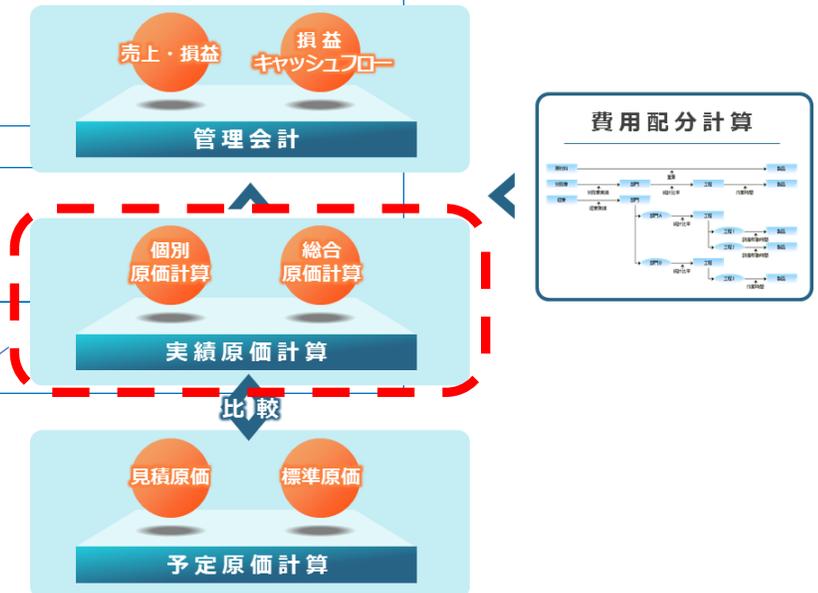
- ・ 最終形を見据えつつ、ステップ分けして進める。
- ・ ステップ1は、比較的単純な原価計算（実績原価計算の基本形）から開始する。
- ・ ステップ1の定着化度合いを確認し、ステップ2、3へ進む。
- ・ ステップ1は、xxxx年xxx月に運用を開始する。



ステップ1で構築するしくみ (案)

- ・ステップ1で構築する原価計算システムは、下記の通りとします。

計算方式	<p>総合原価計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製造品目別に原価集計番号を設定する (工程別計算となる) ・ 投入高 = 出来高とする ・ 累加法とする
原価費目の分類と各費目の計算方法	<p>直接材料費：月次の総平均法で算出した在庫評価単価×投入数量 (前工程完成品を含める)</p> <p>外注加工費：実購入金額</p> <p>労務費：時間単価 (工程別) ×実績工数</p> <p>設備費：時間単価 (工程別) ×実績工数</p> <p>その他経費：直接材料費×経費率</p>
時間単価、経費率の算出	時間単価、経費率は原価計算システムの外で算出し、マスタに登録
データインターフェース	csv (Excel) データを手動でインポート

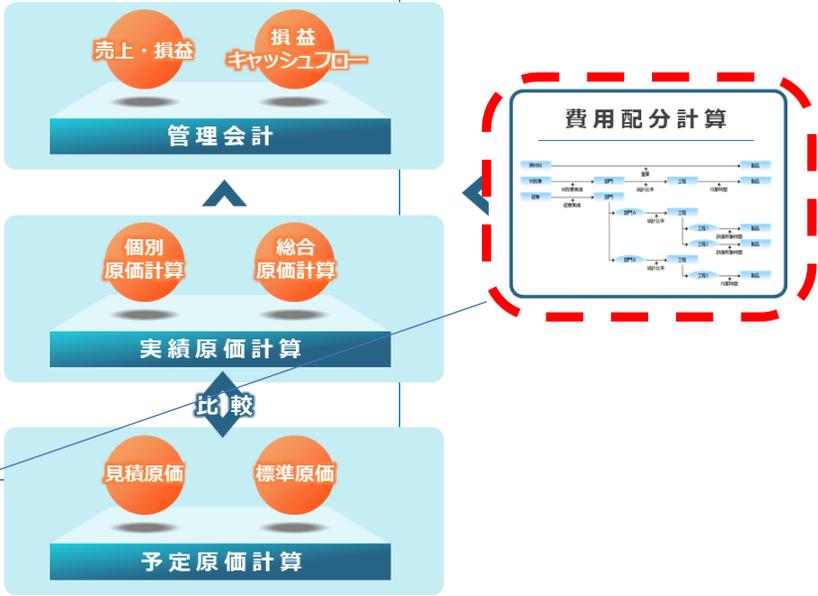


この部分を使用します。

ステップ2で構築するしくみ (案)

- ・ ステップ1の実行状況を確認し、課題を抽出、対応します。

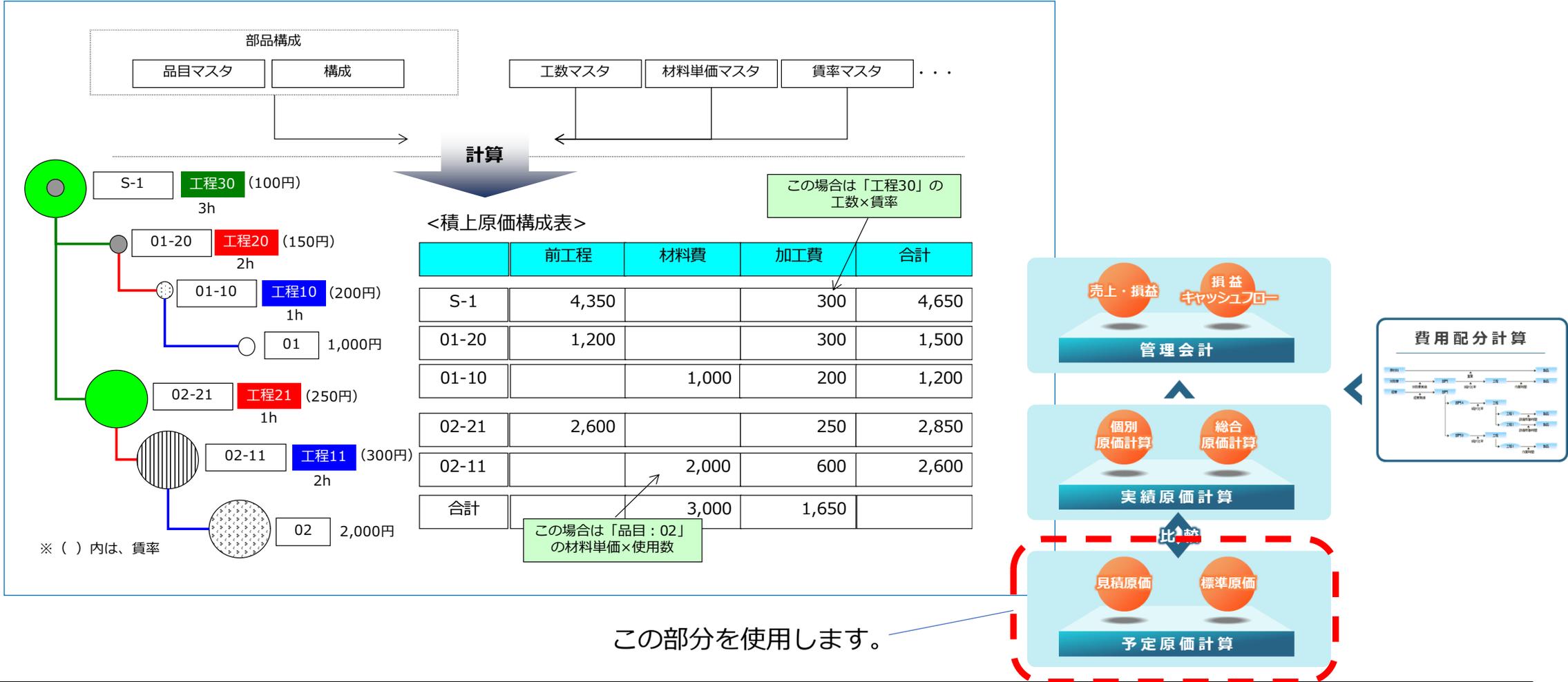
<p>課題 (対策) の例</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1)原価計算基礎データ (購入実績、入在庫実績、工数等) の精度向上 2)原価費目分類の変更並びに、計算方法の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 配賦方法の変更 (〇〇部門の費用は、××基準で配賦する) ・ 設計開発費の製造原価への算入 3)配賦率 (時間単価、経費率) の自動算出、もしくは、 費用配分計算の結果を原価計算表に連携する方式へ変更 4)総合原価計算を実施する場合の仕掛品の扱い改善 5)製造ロット別個別原価計算の実施 6)データ連携の自動化 7)ユーザーに対する原価計算教育の実施、 業務運用ルールの徹底
-------------------	---



この部分を使用する場合があります。

ステップ3で構築するしくみ (案)

- 標準原価の作成をシステム化します。
標準原価と実績原価を比較するしくみを構築します。



ステップ1の進め方

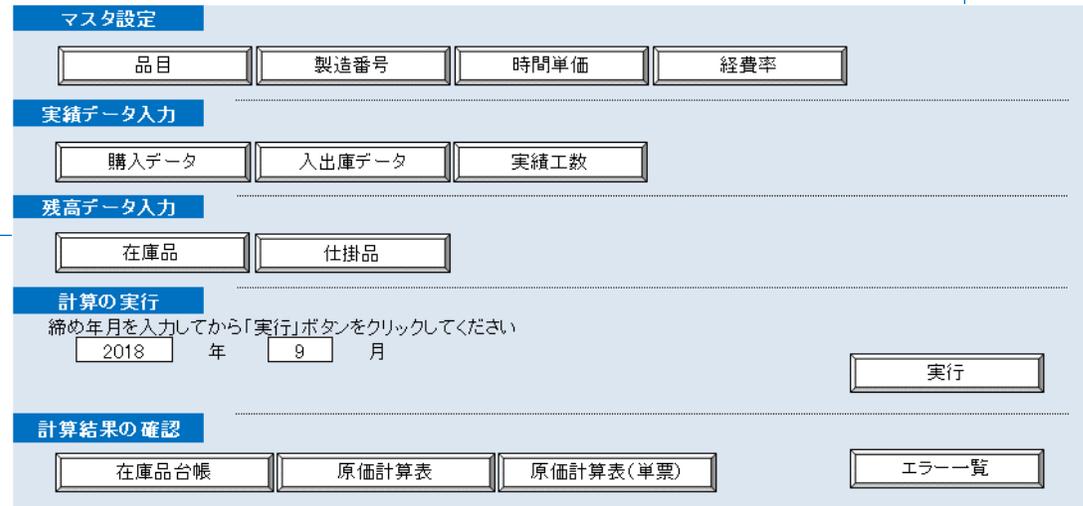
XXXX年XX月

1) 方針の検討支援

「ステップ1で構築するしくみ」に記載した内容につき、理解を深めていただくため、「原価のしくみを実体験する講座」を貴社で開催します。

講座では、Excel版の実績原価計算教育用ツールをご提供します。

このツールを使用し、構築するしくみのイメージをつかんでいただき、進め方（ステップ1として取り組む範囲など）を検討します。



Excel版の実績原価計算教育用ツール

進め方 (2/4)

XXXX年XX月

2) パッケージの仮設置

弊社がデスクトップパソコンにパッケージ (ProSee/原価計算) を設定し、お持ちします。

本パソコンは試行用のものです。

本稼働用の環境 (サーバー、パソコン、OS、Oracleデータベース) は貴社でご用意いただきます。(試行作業を効率化するため弊社とのリモート環境の構築をお願いします)

3) 操作方法の説明及びサンプルデータによる試行準備

ProSeeの操作方法を説明します。

貴社の代表製品の実データをサンプルデータとしての試行準備を行います。

ご準備いただくデータの種類、データ項目、形式をご説明します。

- ・ マスタデータ (品目マスタ、原価集計番号マスタ、時間単価マスタ、経費率マスタ)
- ・ 実績データ (購入、入在庫、工数)

4) サンプルデータによる試行1

サンプルデータによる試行を行います。(残高データはないものとして計算します)

課題を抽出し、対策を検討します。(計算エラー、異常値の原因フォローを行います)

XXXX年XX月

5) アウトプットの確認

ProSeeの各種アウトプット画面につき、表示項目、項目名称の確認を行います。
標準画面で足りない場合の対策を検討します。

- ・ ProSeeに対し、追加の開発を行う
- ・ 貴社にてProSeeデータベースを参照し、Excel等で作成する

6) サンプルデータによる試行2

試行1で発生した課題を解決するとともに、サンプルデータの範囲を拡大します。
残高データ（在庫品台帳の初期残高数量、金額など）の準備を行います。

残高データ、サンプルデータを入力し、試行を行います。

課題を抽出し、対策を検討します。 以下、試行を数回、繰り返します。

7) 本稼働準備

本稼働用の環境（サーバー、パソコン）にProSeeを設定します。

本稼働用のデータをデータの準備を行います。

XXXX年XX月	<p>8) 残高データ入力 前年度末の残高データを入力します。</p> <p>9) 本稼働 当月（例：4月1日～4月10日まで）の実績データを入力し、計算します。</p> <p>本番運用のフォローを行います。</p>
----------	--

これにてステップ1を終了します。

ステップ2の開始時期は、別途ご相談します。（連続して実施することが望ましいと考えます）

詳しい説明を申しつけください。

【本件に関するお問い合わせは下記まで】

ソフトウェア株式会社

〒464-0075 名古屋市千種区内山三丁目18番10号 千種ステーションビル802号室
Tel : 052-439-6758 Fax : 052-439-6759 担当 三井 江利子